

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 8 日現在

機関番号：11301

研究種目：基盤研究(B)

研究期間：2010～2014

課題番号：22401017

研究課題名(和文)ディアスポラにおける民族宗教の変質と再編 - ヒンドゥー教と道教の動態的側面を中心に

研究課題名(英文) Transformation and Reorganization of Ethnic Religions in the Diaspora with Reference to the dynamism of Hindu and Taoist Ritual Traditions

研究代表者

山下 博司 (Yamashita, Hiroshi)

東北大学・国際文化研究科・教授

研究者番号：20230427

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 6,200,000円

研究成果の概要(和文)：インド系・華人系双方のディアスポラそれぞれにおける民族宗教の維持と変容の問題を追求したプロジェクトである。インド人ディアスポラについては世界に拡散するタミル系のヒンドゥー教徒の寺院をめぐる宗教実践を中心に、華人系ディアスポラに関しては東南アジアに展開する道教寺廟と年祭(特に九皇大帝を祀る九皇會)を軸に取材・調査を行った。

移民先の諸条件や諸制約に沿ってその土地ごとの改変を余儀なくされつつも維持されている民族宗教について、変化する要素と不変の要素とを同定し、ディアスポラにおいて民族宗教が有する意義、役割、機能などを考察した。成果を多くの論文や著書に結実させ刊行した。

研究成果の概要(英文)：This is the project focusing on ethnic religions and their practices of Indian and Chinese immigrant communities in the diasporic circumstances. Main attention was paid to Hindu Tamils and their ritual practices at the temples and a Taoist festival of Nine Emperor Gods annually celebrated in many places in Southeast Asia. We identified the significance and function in maintaining their own religions with restrictions imposed by the authorities. The outcome of our research was published widely in various forms including articles, monographs, books and presentations at academic circles.

研究分野：ヒンドゥー教史、インド思想史、宗教人類学

キーワード：ヒンドゥー教 タミル 移民 儀礼 司祭 ディアスポラ 寺院 宗教組織

1. 研究開始当初の背景

研究計画の開始当初の時期には、グローバル化の進展によって、ヒト・モノ・カネ等が旧来の国境を越えて世界各地に拡大・拡散し、それに伴うかたちで、民族宗教もまた越境し世界各地に展開する移民社会（ディアスポラ）に浸透しつつあった。プロジェクトが開始された時点以降、同様の傾向はさらに顕著かつ支配的なものになっている。

ところが一方で、アジアの民族宗教については、それらの本源の地におけるありようが考究の対象になるばかりで、移民によって外部世界に持ち出されディアスポラ的環境の別に応じて変容し維持されてきた状態については、ほとんど研究が為されてこなかったという現状があった。

本研究計画は、民族集団の活発な越境の事態と見通しを踏まえ、重要性を推し量った上で、上記の研究欠落を補うために立案・策定されたものである。

2. 研究の目的

故国・郷里を離れディアスポラに暮らす移民集団の精神生活や民族的・宗教的アイデンティティの支えとなっている民族宗教について、学術的な方法を動員して分析する。それによって民族宗教の越境によって生じる諸要素の変容の実相をさまざまな視点や方法論を用いつつ明らかにし、変化する部分と普遍的な部分とを同定する。それらをもとに、民族宗教のもつ意義、役割、機能を多角的に考察する。

以上の調査研究から知り得た諸事実とそれに基づく多面的考察を踏まえ、宗教のもつダイナミズムを、「ディアスポラに移植された民族宗教」の文脈から総合、止揚ないし一般化し、今日的な宗教現象全体を読み解く重要な鍵の一つを得ることが本研究の窮極的な目的・目標となる。

3. 研究の方法

具体的な対象として、かたやインドのヒンドゥー教、とくに南インド・タミルナドゥ地方に由来するタミル系のヒンドゥー教を取り上げ、寺院を焦点とするタミル移民たちの宗教実践に視点を集約させる。

かたや、それと比較対照されるべき事象として、中国系移民（華人・華僑）によって東南アジア各地（インドシナ、マレーシア、シンガポールなど）で道教の枠組みのなかで維持・伝承されてきた九皇大帝（九皇爺、Nine Emperor Gods）をめぐる信仰と祭祀に焦点を絞り、その需要と変容につき集中的な調査研究を行う。

前者のタミル系ヒンドゥー教については、全世界に拡散した状態の全容を考察の主たる対象としつつも、後者すなわち華人の宗教

伝統と比較対照するために、東南アジアに移された形態に研究活動の主力が注がれることになる。

具体的な研究方法としては、宗教人類学的手法による寺院等の宗教儀礼の参与観察、運営側と信者側の双方に対するインタビュー調査、掲示・広報物や配布物などをもとにした文献調査などを援用して対象に迫る。関連する二次資料にもできるかぎり目配りし、多角的・多面的な現状分析をおこなうよう十分な配慮を加える。

調査内容は、そのつど詳細なフィールドノートに記録し、それを蓄積して総合的な分析に資するようにする。録画や撮影内容については、参照の便に適するようファイルを範疇別に整理し、パーソナル・コンピュータのハードディスク内に格納する。

調査時期については、とりわけ年祭の実施時期に多量の情報や知見が得られることが期待されるので、基本的にインド系と華人系の時期の重なる秋の大祭（インド系の場合はナヴァラートリ、華人系の場合は農曆9月初旬）に照準を合わせて集中調査をおこなう。それ以外の時期は日常の信仰形態の観察に適しているため、随時調査地に赴いて必要な調査に従事することとする。

4. 研究成果

1年ごとの暫定的な研究成果は、毎年9月前後に開催される日本宗教学会の全国大会において、そのつど欠かさず研究発表をおこなって公開してきた。研究発表の場でのフロアーとの質疑応答等を通じて宗教現象の専門家たちからのフィードバックを得、それを次年度の調査研究の計画や調査内容の立案に活かし、次の成果に着実に結びつけるような心がけた。

日本宗教学会以外にも、NIHUプロジェクト「現代インド地域研究」国立民族学博物館拠点（三尾稔拠点代表・杉本良夫拠点副代表）において共同研究員を務め、研究会などで逐次発表するとともに意見交換をおこない、人類学の研究者および地域研究の研究者などから貴重なフィードバックを得た。また、他研究者の研究発表の場においても、本研究による関連の知見を開陳し、ディスカッションに活かした。

さらに、奥山直司（高野山大学密教学部教授）が主宰する京都大学人文科学研究所の公募研究「グローバル化する思想・宗教の重層的接触と人文学の可能性」（2011～2012年度）において、共同研究員に任じられ、前述の国立民族学博物館拠点プロジェクトと類似の役割を帯びて活動し、2013年夏に京都大学同研究所における国際シンポジウムで当該テーマのもと研究発表し内外に成果発信をおこなった。

研究の年度ごとの進展状況は、日本宗教学会発行の『宗教研究』の各年度の研究発表要

旨号に掲載されるかたちで公開を続けてきた。また、グローバル化から派生する文化的・宗教的様相に関する研究成果は、次項で掲げる多くの研究論文、著書、報告書、事典の項目執筆等に結実させ、学界内のみならず広く社会全体に発信するよう心がけてきたつもりである。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計19件)

山下博司・岡光信子「現代アラブ世界のヒンドゥー寺院 - マスカット(オマーン)のインド系コミュニティと宗教実践 - (査読有)『東方』第29号、2015、pp.110-135.

山下博司「ヒンドゥー教の世界化と寺院司祭 - アーガマ化の概念にも触れて - (査読無)『宗教研究』第88巻(第383号第4輯) 2015、pp.343-34.

山下博司「スリランカ移民とヒンドゥー寺院 - カナダ、ドイツ等に取材して - (査読無)『宗教研究』第87巻(第379号第4輯) 2014、pp.471-472.

Hiroshi YAMASHITA & Nobuko OKAMITSU, "Transitional Phases of Indian Cinema under Globalisation with Special Reference to the Emergence of the Overseas Market" (査読有)『東方』第28号、2014、pp.147-165.

山下博司「シンガポール共和国におけるマレー語散文学の歩みと保存・振興 - 国立図書館評議会の活動と役割を中心に - (査読有)『東方』第27号、2013、pp.343~359.

山下博司「<国際化>から<グローバル化>へ - 研究・教育の新たな次元をめざして - (査読有)『国際文化研究科論集』第21号、2013、pp.40-43.

山下博司「インド4000年の宗教史を紐解く - 宗教の曙から最新動向まで - (査読有)『ヨーロッパ・グローバル化と諸文化圏の変容 研究プロジェクト報告書』第1号(東北学院大学オープン・リサーチ・センター) 2012、pp.139~153.

山下博司・岡光信子「シンガポールのヒンドゥー寺院における女神祭祀とインド叙事詩 - <火渡り>の儀礼シーケンスを中心に - (査読有)『東方』第27号、2012、pp.215~245.

山下博司「国際ツーリズムと華人祭祀 - タイとマレーシアの事例をもとに - (査読無)『宗教研究』第85巻(第371号第4輯) 2012、pp.514~515.

山下博司「シンガポール共和国とマレー文学 - 国立図書館評議会(NLB)による作品の保存と文芸活動の振興を中心に - (査読無) 鈴木道男編『ディアスポラにみる文

学の再発見と蓄積 - アーカイヴ化されるマイノリティの記憶 - 』(科学研究費補助金・基盤研究C 研究報告書)2012、pp.52~64.

山下博司・岡光信子「シンガポールのヒンドゥー寺院における女神祭祀とインド叙事詩 - <火渡り>の儀礼シーケンスを中心に - (査読有)『東方』第27号、2012、pp.215~245.

山下博司「国際ツーリズムと華人祭祀 - タイとマレーシアの事例をもとに - (査読無)『宗教研究』第85巻(第371号第4輯) 2012、pp.514~515.

山下博司「シンガポールの国民統合と宗教間対話」(査読無)『宗教研究』第83巻(363号第4輯) 2010年、pp.509-510.

山下博司・岡光信子「シンガポールの宗教政策と民族融和 - 宗教間関係と<宗教協和宣言>の成立を中心に - (査読有)『東方』第25号、2010年、pp.178-198.

山下博司「ドイツのヒンドゥー教 - シュトゥットガルト等の寺院調査から - (査読無)『宗教研究』第86巻(第375号第4輯) 2013、pp.435~437.

山下博司・岡光信子「グローバル化のなかで変容する社会 混成化・越境・均質化」(査読有)『地域研究』[総特集 混成アジア映画の海 - 時代と世界を映す鏡 - (京都大学地域研究統合情報センター発行・昭和堂発売)、Vol.13、No.2、2013、pp.359-368.

山下博司・岡光信子「グローバル化のなかのインド・メディア産業 - 人材育成とメディア教育の現況にも触れて - (査読無) NIHU プログラム 現代インド地域研究国内全体集会『社会変容とメディア: グローバル・インドの諸相 要旨集』 2010、pp.8-9.

山下博司「アジア人の化粧に見られる身体観・身体表象とその変容についての研究 - 身体装飾のアジア的传统と<化粧のグローバル化>の狭間で - (査読無) 財団法人コスメトロジー研究振興財団『研究紀要』 2010年号、pp.12~15.

山下博司「インディアン・スピリチュアリティと現代 - ヴェーダーンタ的一元論の再編とその今日的意義をめくって - (査読有)『宗教研究』(日本宗教学会) 第84巻(第365号第2輯)、2010、pp.325~348.

[学会発表](計9件)

山下博司「スリランカ移民とヒンドゥー寺院 - カナダ、ドイツ等に取材して - (日本宗教学会、國學院大學、2014.9.8.

山下博司「グローバル化のなかのヒンドゥー教 - 東南アジアのタミル寺院などを中心に - (京都大学人文科学研究所公募研究プロジェクト・国際シンポジウム「グローバル化する思想・宗教の重層的接触と人文学の可能性」京都大学人文科学研究所本館1階セミナー室、2013年9月21~22日

山下博司「<国際化>から<グローバル化>へ - 研究・教育の新たな次元をめざして - 」東北大学大学院国際文化研究科創立20周年記念行事、東北大学百周年記念会館会議室、2014.11.19

山下博司「ドイツのヒンドゥー教 - シュトゥットガルト等の寺院調査から - 」(日本宗教学会、(皇學館大学) 2012.9.9.

山下博司「インドの宗教事情-宗教多元主義国家の光と影-」、東北学院大学ヨーロッパ文化研究所公開講演会、東北学院大学文学部、2011.6.14.

山下博司「国際ツーリズムと華人祭祀 - タイとマレーシアの事例をもとに - 」(日本宗教学会、関西学院大学、2011.9.4

Hiroshi YAMASHITA & Nobuko OKAMITSU, "Indian Filmdom in Transition: Recent Developments and Transformations of Commercial Cinema under Globalization", International Symposium "Media and Power in Contemporary South Asia" at National Museum of Ethnology, Osaka, Dec.17, 2011.

山下博司「国際ツーリズムと華人祭祀 - タイとマレーシアの事例をもとに - 」(日本宗教学会、関西学院大学、2011.9.4

山下博司・岡光信子「グローバル化のなかのインド・メディア産業 - 人材育成とメディア教育の現況にも触れて - 」NIHU プログラム 現代インド地域研究国内全体集会『社会変容とメディア：グローバル・インドの諸相』東京外国語大学、2010.12.4-5..

〔図書〕(計5件)

山下博司「ディアスポラとヒンドゥー教 - 東南アジアのタミル系寺院と司祭 - 」(査読有) 三尾稔・杉本良男編『環流する文化と宗教(現代インド6)』所収、東京大学出版会、2015、pp.253~275.

山下博司「南インドのヒンドゥー教」(査読有) 立川武蔵・杉本良男・海津正倫編『朝倉世界地理講座4 南アジア』朝倉書店、2012、pp.323~331.

山下博司「南インドのバクティ運動」インド系ディアスポラとヒンドゥー教「ヨーガとシットル」東南アジアのインド系移民の宗教」(査読有) 世界宗教百科事典編集委員会編・井上順孝(編集主幹)『世界宗教百科事典』、丸善出版、2012、pp.504~505、518~519、522~523、552~553.

山下博司「世界の宗教潮流：ヒンドゥー教」、「世界宗教の聖典：ヒンドゥー教」、「宗教の基礎用語：バクティ」、「宗教の基礎用語：ヨーガ」(査読有) 山折哲雄監修(川村邦光・市川裕・大塚和夫・奥山直司・山中弘編集)『宗教の事典』朝倉書店、2012、pp.156~168、575~581、879~881、897~899.

山下博司「ヨーガの要諦とヨーガのグローバル化をめぐる」(査読有) 鈴木正崇編『南アジアの文化と社会を読み解く』所収、慶應義塾大学出版会、2011、pp.281~305.

〔産業財産権〕
出願状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

山下 博司 (YAMASHITA, HIROSHI)
東北大学・大学院国際文化研究科・教授
研究者番号：20230427

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：